

DMS P/FU (DWIDP) JICA 便り

ネパール自然災害軽減支援プロジェクト・フォローアップ（水資源省治水砂防局）

No. 17 / 2006 . 1 . 31

あけましておめでとうございます。また寒中お見舞い申し上げます。日本での大雪・低温のニュースはこちらの NHK ワールドで報道されています。カトマンズの街中では雪が降ることはありませんが、朝夕は冷えるとともに乾燥しているためか風邪をひきやすく、一度罹るとなかなか抜けません。この年末年始には我々専門家も、日本へ一時帰国したり日本の家族や友人がこちらに来たりと、それぞれの「お正月」を過ごしました。

治安状況については、2月8日に政府が実施を予定している地方選挙（全国58市の市長、副市長、区長、区議）に対して主要7政党とマオイストが年末に抗議プログラムを発表しました。1月2日、マオイストが昨年9月から継続していた停戦を破棄し全国数箇所で爆発事件が発生しました。14日にはカトマンズ盆地内の検問所等がマオイストの襲撃を受け、12名の警察官が殺害され、その直後、政府からカトマンズ盆地内等に夜間外出禁止令（カーフュー）が発令されました（最長時は21時～4時）。また政党側が20日に計画していたカトマンズ市内での大規模な集会に対して、政府は19日朝、政党のリーダー等多数を拘束するとともに、20日日中のカーフューを発令しました。このため20日には大きな衝突等は起こっていませんが、この措置に対して政党側は1月26日の全国バンダ（交通等ゼネスト）



政党支持者と警察の衝突
カトマンズ市ニューロード、24日
（Nepalnews.com の website 上から）

を宣言しました。21日以降カトマンズ市内ではデモ等での衝突が続くとともに、地方においてはマオイストによる政府機関等の襲撃や選挙への立候補を表明した者の殺害の報道があります。30日にはパタン市内で市長候補者への銃撃事件がありました。今後、2月8日の選挙に向け選挙日前後1週間のバンダ等の抗議プログラムが予定されており、また2月13日はマオイストの「市民戦争蜂起」11周年記念日であり、予断を許さない状況になっています。

この他生活面においては、LPガスの入手が難しくなっているとともに、電力不足に対処するため今月はじめから計画停電が開始され、現在は毎日、朝もしくは夕方2～3時間の停電となっています。

我々専門家は安全に十分注意を払いつつ、ネパールの災害の軽減を図り、災害で苦しむ人々が少なくなることを願って今後とも活動を続けていきたいと思っています。本年もご指導・ご支援よろしくお願い申し上げます。

ノーピセ - ヘタウダ道路ラミダラ地区の現地調査を実施しました

ノーピセとヘタウダを結ぶトリブバンハイウェイにおいて、昨年の雨季に発生した地すべりによる被災しているラミダラ（Lamidala）地区の対策に関して公共事業計画省道路局から検討依頼があり 1 月 13 日に現地調査を実施しました。DWIDP からシャルマ（Mr.S.K.Sharma）副局長、地すべり課のトラダール（Dr.R.M.Tuladhar）課長、ダハール（Mr.K.N.Dahal）エンジニアをはじめ地すべり課のエンジニア、オーバーシア、そして武士専門家が参加するとともに、道路局ヘタウダ地区事務所（Hetauda Division of the Department of Road）からゴサイン（Mr.S.B.Gosain）エンジニアが参加しました。



ラミダラ地区の崩落状況

地すべりにより道路が延長約 30m にわたり崩落し、がけ下高さは約 200m 以上、一部岩の露出があるものの未固結の砂岩を主体とした斜面で、次期降雨で容易に崩壊の拡大が予想されます。現在、崩落部に接しない法線とした仮道により交通を確保していますが、崩



工事表示板と M-N 道路現場

落部の対策の困難さから、本復旧においても崩落部を避けた法線が適切と考えられます。ただしこの場合においても当該地すべりの拡大防止は必須であるため、今後、道路局と連携をとって検討していくことになります。

14 日にはムグリン - ナラヤンガード（M-N）道路沿いの対策工事の進捗状況等を調査しカトマンズへの帰途につきました。

主な出来事・トピック

DWIDP 新局長が就任しました

昨年 11 月から空席であった DWIDP の局長に、バッタライ（Mr.Narayan Prasad Bhattarai）新局長が就任しました。バッタライ新局長の前職は水資源省次官補（Joint Secretary）で、1992 年から 1996 年まで DPTC の研修課長（Divisional Chief-Training Div.）として在籍された経験を持ちます。



挨拶するバッタライ新局長

1 月 5 日には DWIDP セミナーホールで歓迎会がありました。DPTC 立ち上げ時の経緯を知り経験豊かな局長を得て、フォローアップ活動の円滑なとりまとめが出来るものと期待しています。

第 16 回一般コース技術研修（General Course Training）が開催されました

12 月 18 日から 1 月 22 日までの約 5 週間の日程で、治水・防災に関する一般技術研修が開催されました。当研修は、当初は DPTC プロジェクトの一環として開始したものを



修了証を受け取る参加者

DWIDP が引き継ぎ、現在ではネパールサイドによって運営されています。

当研修の対象は各省庁等のオーバーシアー（工事監督官）クラスで、今回は、灌漑局、道路局、水文気象局、土壤保全流域管理局、地方インフラ開発・農業道路局、電力公社、ネパール警察、ネパール政府軍、そして DWIDP の新任者等の 15 名の研修生を迎えて実施されました。このうちカトマンズ盆地外のオフィスからの参加者 1 名、女性の参加者は 3 名でした。日本人専門家からは 1 月 12 日に武士専門家が「Landslide Works in Japan」と題してレクチャーを行いました。

フォローアップ活動を進めています

マタチュルタ災害復旧現場の崩壊地跡植生調査を実施しました

“植生調査”をマタチュルタ災害復旧工事現場で行いました。復旧工事後の記録が無い現場ですが、2003 年に 16 名の死者が出た現場の山腹復旧状況を数量で把握する事を目的に、武士・中川両専門家及び DWIDP 砂防課のカルキ（Mr.Karki）氏と共に作業に入りました。災害時は裸地になっていた現場は、樹高 5m 以上にも生育した樹木が混入し急速な山地復旧が進んでいます。



12 月の現場（黄色は菜の花）

崩壊時に踏査しているカルキ氏は、一回目の踏査の折には“この調査は、ネパールにとって必要な仕事です。”と言っていました。

カルキ氏によると、現地の優勢樹種は Uils（チルス）と呼ばれる広葉樹で中高地（1000～2000m）の比較的湿潤地に繁茂する樹種であるとの事でした。実生は崩壊地直近の母樹からの供給によっており、林地内植種は多種で現在は比較的健康な林地の形態をしているとの事です。林地内には、鳥の巣・蜂の巣営跡があり昆虫の樹種侵食も見付けられました。一方、村人による少量の伐採や採石が始まっている事も見られました。

崩壊地内の谷筋の侵食は、安定した発達（80×50cm V 型）をしており、不安定土砂からなる山腹にはガリー侵食は認められず、安定した林地を確認できました。



樹高・胸高直径計測状況
（中川専門家）



既往施設堆積状況調査
（武士専門家）

現在、10×20mのサンプル毎木調査（三箇所）の解析が Kark 氏によって進められています。中途報告の中には、“11,000 本/ha”という数字も飛び交う議論をしています。数量を基礎に災害復旧工事の評価が出きる事を望んでいます。

ヘイハチローの「ナマステ、ネパール」コーナー

(還暦を過ぎて、初めての海外、厳しい環境のネパールで技術協力・生活に取り組む「中川平八郎専門家」の「眼」で見た「ネパール」を紹介するコーナーです。)

一時帰国を終えて(1月)

12月25日から1月16日まで、健康診断を兼ねて一時帰国を初めて経験しました。

“ご近所の底力(そこちから)”と“有難さ”を感じ入る事が最も印象的でありました。昨年の早春、着任する事が決定し、間もなく離日しました。しかるに、その後留守宅を皆さんから“通りの掃除”をして頂く等見守られていた事実を知り、任地先にて何の心配もせず過ごさせて頂いた事を、感謝を持って実感した事でした。



玄関のお飾り

帰任して再び事務所通いが始まりました。風景がこんなに違ったのかと戸惑っています。昔有名な日本の科学者が書いた本に、著者が車窓から見た景色を“自然は優しいお母さんの様だ。其れは曲線に満ちている。人の作るものは、田畑を見ても直線だ。”と言った様な意味のことが書かれていたのを思い出します。カトマンズの風景は曲線です。建物は直線を主体とするレンガ造りですが、整地の高さが元地形を少々整形しただけの事ですから、全体としては曲線です。街中の道路の法線も河川の流線も曲線(優しい線形)をしています。等高線に合わせた田畑も曲線で形作られ、圃場整備の直線ではありません。日本ではその殆どが直線から成っておりました。日本の其れらがとても威圧する風景として思い出され、その風景の中で短い期間の間生活を送って来たのだと想われます。ここネパールでは、文化も環境も異なる者同志で仕事を進める事は、意識外の点でも異なっている者同志と一緒に仕事をしている事もあると言う事をもう一度今感じさせられています。”あわさい“は何処にあるのか？是からの仕事を進めていくのに大切な事と一当たり前の事ですが一思っています。



近所の街角



棚田

この度の帰国時には、多くの方々と再会でき沢山の激励を戴き感謝しております。減量が出来、血圧が正常と言った結果の健康診断を無事終えて帰ネし、今日も青天を背景にした白いヒマラヤの山々がその姿を見せてくれます。

編集責任者：武士俊也、長期専門家：中川平八郎

電話：+977-1-5535502 Fax：同-5523528 E-mail：dmspfu@wlink.com.np URL：<http://www.dwidp.org>